

福島第一原子力発電所 一時保管エリアP排水枡における 全ベータ値の一時的な上昇について（続報3）

< 参 考 資 料 >
2021年7月9日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 7月5日、一時保管エリアP排水枡における放射能分析結果において、全ベータの値が一時的に上昇したことを受け、7月6日に当該排水枡周辺の地表面についてサーベイを行なったところ、一時保管エリアP2で廃棄物を保管するために使用しているノッチタンク周辺の地表面において、750 μ Sv/h（ガンマ+ベータ）あることを確認しました。また、7月7日、一時保管エリアP南側排水溝、および東側流入地点（上流）において全ベータの値が高いことを確認しました。
- 7月7日、当該排水枡や排水溝周辺の状況調査において、ノッチタンク2基の天板ハッチ部蓋が4箇所ずれていること、および内部と天板上に水が溜まっていることを確認したことから、昨日（7月8日）内部と天板上に溜まっていた水の放射能分析を行いました。
 - 【ノッチタンク（北）タンク内の水】
全ベータ:79,000Bq/L、セシウム137:検出限界値未満(検出限界値6.5Bq/L)、セシウム134:検出限界値未満(検出限界値6.3Bq/L)
 - 【ノッチタンク（北）天板上の水】
全ベータ:71,000Bq/L、セシウム137:検出限界値未満(検出限界値4.9Bq/L)、セシウム134:検出限界値未満(検出限界値4.2Bq/L)
 - 【ノッチタンク（南）タンク内の水】
全ベータ:33,000Bq/L、セシウム137: 検出限界値未満(検出限界値5.6Bq/L)、セシウム134:検出限界値未満(検出限界値5.3Bq/L)
 - 【ノッチタンク（南）天板上の水】
全ベータ:30,000Bq/L、セシウム137:検出限界値未満(検出限界値4.8Bq/L)、セシウム134:検出限界値未満(検出限界値4.0Bq/L)
- なお同日、当該ノッチタンク2基について、天板上にシート養生を実施するとともに、周囲へのゼオライト土嚢の設置を実施しております。

（以上、2021年7月8日までにお知らせ済み）

調査状況および対策の状況について

- 7月7日、上記ノッチタンク2基において、天板のハッチ部蓋がずれていたことを踏まえ、昨日（7月8日）ノッチタンクを使用している一時保管エリアC,E1,P2,W1,X（※）において、天板のハッチ部蓋の状況調査を、ドローンを用いて実施しました。
- 調査の結果、一時保管エリアXで使用しているノッチタンク30基中、目視で確認できる範囲において1基のタンク（金属ガラを保管）で、天板のハッチ部蓋がずれていること確認しました。なお、一時保管エリアC,E1,P2,W1の目視で確認できる範囲においては、ずれがないことを確認しています。
- 本日（7月9日）当該ノッチタンクの蓋を正規の位置に戻すとともに、今後、蓋がずれないように蓋上への土嚢設置の対策を講じております。
- また、天板上に水が溜まっていないこと、内部についても見える範囲では水は確認されていないこと、および漏えいがないことを目視確認により確認していますが、今後、当該ノッチタンク周辺のサーベイ等を行い、当該エリアの状況について調査を進めてまいります。
- また引き続き、一時保管エリアP排水枡の全ベータが一時的に上昇した原因を調査してまいります。

※:一時保管エリアNにおいてもノッチタンクを使用しているが、屋根を設置しており、雨が浸入し難いため対象外

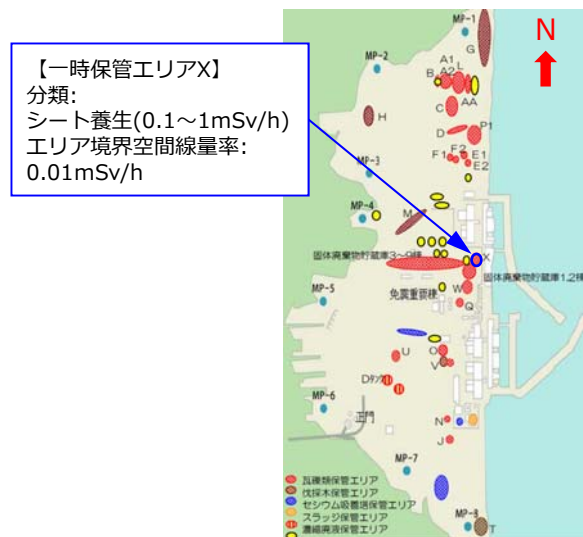


写真1.蓋がずれた状態
(7月9日撮影)



写真2.蓋を閉じ、土嚢設置対策後の状態
(7月9日撮影)